

落ち葉のにおい

森の中を進むと、大きなケヤキが空へと伸びる、少し開けた広場に到着しました。「ちょっと休憩しましょうか」木の根元にシートをひいて、ごろんと寝転びます。心地よい風が頬を撫で、木々がこすれる音を感じます。目つぶってじっとしている人。空を見つめている人。「そろそろいきましようか」ガイドの合図で起き上がり、深呼吸と軽くストレッチ。「ツアーでは、森の中で特製のお弁当を食べるのもおすすめですよ」きたもと森林セラピーでは、参加者の希望があれば、北本野菜たっぷりのお弁当を、ツアーのお昼に味わうことが出来るそうです。たっぷり歩いたご褒美に、身体喜ぶセラピー弁当を、ぜひご賞味あれ。



まちごよみ 霜月

秋から冬は野菜が美味しくなる季節だ。葉物は甘みが増し、煮物に根菜は欠かせない。そんな秋冬野菜の中でも、ファンが多いのが里芋だ。シンプルにそのまま蒸してお醤油で。煮物にしても汁物にしてもうまい。お正月の八頭も定番だ。あのねっとりとした食感と独特の香り。日持ちもするので、それも嬉しいポイント。そんな万能食材な里芋を、実際に畑から収穫出来る機会が訪れた。会場となる畑は、梅狩りや栗拾いでお世話になっている今井農園。荒井地区で代々続く農家だ。鍬とシャベルを使い、土に埋まっている里芋を掘り起こしていくのは、大人の仕事。子供たちは掘った芋を、親芋と小芋に分けていく。親芋は大人の手の平位の大きさで、そこに小芋がたくさんついている。ポキポキと小気味いい音を立てながら、夢中で小芋をもぎ取っていく。「親芋も食べられるから、欲しい人は食べてみて」今井さんが持ち帰りの芋を分けてくれる。収穫した小芋は、タライで「しし」と洗われ、お昼の芋煮汁へ。秋晴れの澄んだ空の下、子供たちの「おかわり」の音が響く。

(岡野高志)

暮らしの学校 里芋を掘る



&green

『みどりと新聞』vol.5 2022年3月発行
制作：北本市市長公室 デザイン：黒川早苗 イラスト：梅田沙織

&green
funclub



みどりと
まつり
開催

